

めぶきニューヨークレポート

MEBUKI NEW YORK REPORT

2023年8月号

好調を維持する米国の景気動向について.....	2
NY ライフ ～夏の野外イベント～.....	4
News 一覧.....	5

常陽銀行ニューヨーク駐在員事務所
712 Fifth Avenue 8th FL
TEL : +1-347-686-8420
E-mail : newyork@joyobank.co.jp

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願いいたします。

発行元：常陽銀行市場国際部



【写真引用：pixabay】

好調を維持する米国の景気動向について

米国経済に関する予想は、年初時点では「急激な利上げにより年後半には厳しい景気後退に陥る」との見方が優勢でしたが、足許では「個人消費や雇用市場は好調を維持しており、景気後退のハードランディングは回避できる」との見方が増えてきています。今回は、米国の個人消費・雇用情勢等について、現地で感じる状況と今後留意すべきリスク要因についてレポートいたします。

1. 個人消費の状況 ～総じて好調も二極化の可能性～

- ✓ 米国の GDP の 7 割を構成する個人消費については、米小売売上高が堅調さを維持しており、足許も前年比プラスで推移しています。変動の大きい自動車などを除いた指標も堅調で、インフレ下でも消費は底堅く推移しています。背景として、コロナ禍以降に政府から支出された特別給付金による「過剰貯蓄」（後述）がそうした消費を支えているとの声もあります。
- ✓ 「過剰貯蓄」は 2020 年に 2.1 兆ドルまで増加した後、2023 年中頃には枯渇するとの見方もありましたが、米サンフランシスコ連銀の調査では、足許 5,000 億ドルが滞留しており、引き続き消費を下支えすると見られています。
- ✓ また、米国のクレジットカード利用残高も過去最高を更新し、消費を後押ししています。私の自宅にもクレジットカード会社からのダイレクトメールが何通も届き、様々な特典が契約意欲を煽っています。一方で、カードローンのデフォルト率が上昇しつつあるとの指摘もありますが、金融機関による個人への信用供与はまだ継続していると言えます。
- ✓ 食料など日用品の価格は高止まりしていますが、足許インフレ指標の伸びは鈍化傾向にあります。以前は比較的価格が安いスーパーに人が集まっていたが、最近ではオーガニックを中心に扱う高価格帯スーパーにも客足が戻っており、市民は物価高に慣れてきた感があります。
- ✓ 当事務所オフィスは、ショッピングストリートとして有名なニューヨーク 5 番街に位置していますが、大通り（アベニュー）沿いには新しい店舗が続々とオープンし、ショッピングバッグを下げた通行客が多く見られます。その一方、一步横道（ストリート）に入ると、小売や外食の空き物件

図 1 小売売上高（前年比）、貯蓄率の推移

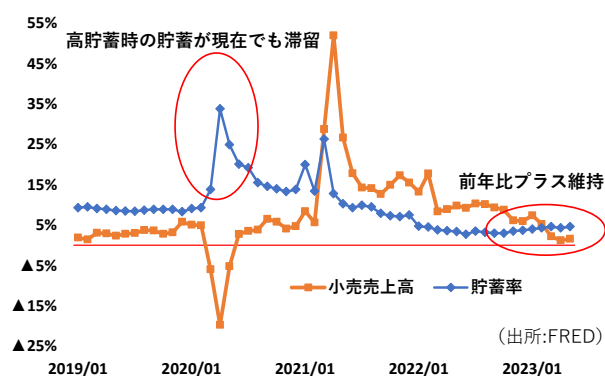
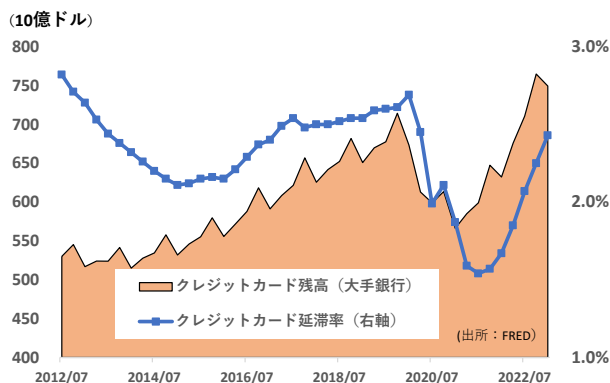


図 2 クレジットカード残高、延滞率の推移



テナント募集中の表示 (59 番・レキシントン通り)

も多く見られます。また、周辺にはホームレスや無料の食料配給の列に並ぶ人も見られ、旺盛な消費活動が中低所得層を含めた全体にまで広がっているかは疑問が残ります。従業員のオフィス回帰がまだ停滞（出勤率 50%）していることから、外食産業の本格回復はまだ道半ばであると言えます。

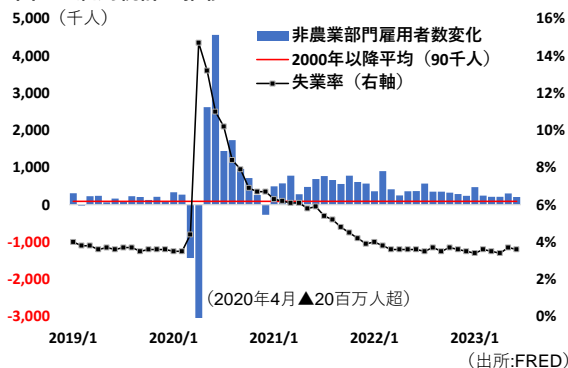


写真左：賑わう 5 番街 57 番通り
写真右：57 番通りに位置する改装後のティファニー本店

2. 雇用の動向 ～総じて好調～

- ✓ 労働市場は「好調」と言われており、最も注目される非農業部門雇用者数は、おおむね過去平均を上回るペースで増加しています。失業率も 3% 台と低い数字を維持しており、賃金も底堅く上昇しています。
- ✓ 街中でも人材募集の広告が多く見られ、企業の採用意欲は変わらず活発な印象を持ちます。ニューヨークの人材派遣会社の方に話を聞くと、年頭には「利上げの影響で年後半に大きく崩れる」と想定していたようですが、現在は「求人数も大きな変化なく、年内はそのまま行けそう」との感触を得ているようです。
- ✓ 上記のように足許好調を維持する労働市場ですが、労働局のデータを紐解くと、人種別では黒人が離職者のほとんど（約 9 割）を占め、失業率も上昇しています。レストランなど外食産業においては、ウェイターやデリバリーなどは非白人が従事するケースが多く、外食産業の業績が悪化すると最初に解雇されることから、雇用悪化の予兆を示すとされています。そのため、雇用悪化がサービス業全体に広がる可能性を警戒する声の一部出ています。

図 3 雇用統計の推移

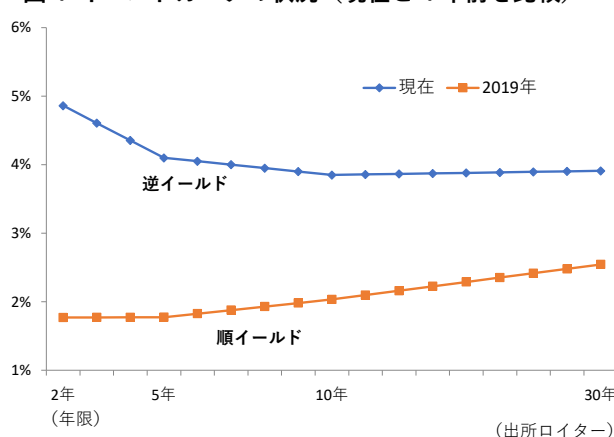


5 番街アバクロでのスタッフ募集のポスター
(洋服がスタッフ価格になりますと応募を呼びかけ)

3. 景気後退への警戒感

- ✓ 好調な米経済のリスク要因として、インフレ高止まりや FRB の利上げ継続、金利上昇に端を発する地方銀行不安や商業不動産問題などが挙げられており、それらを警戒する声も市場の一部で根強くあります。
- ✓ 「イールドカーブ」と呼ばれる期間別金利の曲線は、期間が短い金利は低く、長い金利は高い（右グラフ：2019 年時）のが通常ですが、米国では昨年 7 月から「逆イールド」（短：高、長：低）と呼ばれる状況にあります。2 年と 10 年の金利差が 1% を超えるのは 1981 年以來で、景気後退の予兆として警戒されています。

図 4 イールドカーブの状況（現在と 4 年前を比較）



4. おわりに

- ✓ 米国経済が世界に与える影響は大きく、日本経済の先行きを占う上でも目が離せない問題です。足許はまだ好調を維持していると判断できますが、上記リスク要因も含めて注意深く観察する必要があります。
- ✓ 当事務所では、こうした米国経済の実情についても皆様のお役に立てる生の情報を提供してまいります。

【ニューヨーク駐在員事務所 吉田 圭佑】
(お問い合わせ先：newyork@joyobank.co.jp)

* 写真はすべて筆者撮影

NY ライフ ～夏の野外イベント～

NY では夏の日が長い6月から9月に期間に、セントラルパークなど市内の公園では、音楽、ダンス、映画、ミュージカル、演劇などの野外パフォーマンスを無料で楽しむことができます。世界中の著名なアーティストから地元NY出身のアーティストまで幅広く参加し、NYらしい国際色豊かで質の高いパフォーマンスが見どころです。州政府、大手企業、地元の中小企業などがスポンサーとなり、地元のフード屋台も数多く出店し、地域密着型で、市民に愛される夏の恒例イベントとして定着しています。今回は筆者が参加したイベントを紹介します。



マンハッタンの夜景と野外映画

[ムービー・ウィズ・ザ・ビュー]

ブルックリン地区ダンボにあるブルックリン・ブリッジパークでは週に一度、マンハッタンの夜景と共に無料で楽しめる野外での映画が上映されています。

筆者が訪れた時は「E.T.」が上映され、芝生の上では子供連れの家族から学生、会社員達が食事を持ち寄り、夕暮れと共に始まる映画をリラックスしながら楽しんでいました。

ブルックリンの中でも人気の高いイベントの一つです。

[ブリック・セレブレート・ブルックリン]

今年で45回目となる、ブルックリン地区プロスペクトパークで毎年行われる野外コンサートです。訪問した日はジャマイカで最も成功したレゲエシンガーの1人、マーシャ・グリフィスと、NYをベースに活躍する多国籍レゲエ・スカグループ、ブラウン・ライス・ファミリーの公演でした。このグループはアメリカ人のほか、ハイチ、ジャマイカ、南アフリカ、日本の多国籍メンバーで構成され、NYらしい多様性が表れています。パーカッションのリズムに合わせて観客も踊り、カリビアン音楽が夜を盛り上げていました。また、演奏中には耳が聞こえない人のために手話の同時通訳が大画面に映し出されます。車いすの方などのスペースは観客席の中央に用意され、障がい者の方たちも一緒に音楽を楽しめるような配慮が感じられました。



コンサートの模様



ビーガンフード・マーケットの様子



ジャーク・チキン・タコス

[ビーガンフード・マーケット]

セントラルパークでは今年、NY初となるビーガン（肉や動物性食品を使わない）料理の市場が開催されました。

訪問した日は、世界各国の料理（メキシカン、カリビアン、中華、アフガニスタン）やスイーツ（アイスクリーム、クッキー）などの屋台が、代用肉などを使ったメニューを提供していました。（価格帯:\$5～\$15）

ビーガン料理はここ10年で味も大きく改善されたと感じます。

【ニューヨーク駐在員事務所 小田川琴音】

*写真はすべて筆者撮影

News 一覧

<政治>

- ・米最高裁、移民取り締まり巡るバイデン政権の指針導入認める (6/26)
- ・米政権、4.5 億ドルでバイオ燃料生産拡大へ 輸送部門の脱炭素化 (6/26)
- ・米大統領選出馬の共和ヘイリー氏、対中貿易の大幅な制限主張 (6/27)
- ・保守派ママ組織、24 年米大統領選の新勢力に 共和アピールに腐心 (6/30)
- ・米政権、SNS 規制制限の地裁命令に控訴 偽情報管理巡り (7/5)
- ・米大統領選、デサントイス氏が第 2 四半期に 2,000 万ドル調達 (7/6)
- ・米雇用に「バイデノミクス」効果、持続可能な景気拡大＝バイデン大統領 (7/7)
- ・米保有の最後の化学兵器備蓄を廃棄、バイデン大統領が発表 (7/9)
- ・ハリス米副大統領、新たな保育費抑制策を発表 自己負担に上限 (7/11)
- ・ロイター／イブソス世論調査、バイデン大統領支持率 40%、就任後最低近辺、経済が最大の懸念 (7/12)
- ・バイデン政権、学生ローン 390 億ドル免除 返済制度見直し (7/15)

<金融政策>

- ・シカゴ連銀総裁、FRB 年内あと 2～3 回の利上げ必要 (7/7)
- ・NY 連銀 米消費者の 1 年先インフレ期待は 3.8%、2 年ぶり低水準 (7/10)
- ・バーFRB 副議長、米金利、適切な水準に近い なお幾分やるべきことある (7/10)
- ・アトランタ連銀総裁 米利上げなくとも物価目標達成の「単純明快な」理由あり (7/10)
- ・米大手銀の資本規制強化へ、バーFRB 副議長が計画説明 業界は反発 (7/10)
- ・NY 連銀総裁、FRB は利上げ終えていない 英紙フィナンシャル・タイムズ (7/11)
- ・リッチモンド連銀総裁、米インフレ高すぎる、目標達成確信できず (7/12)
- ・地区連銀総裁、FRB の新決済システム、銀行の資金流出リスクに対応 (7/12)
- ・米抵当銀行協会 (MBA)、30 年物住宅ローン金利 7%突破、昨秋以来利上げ長期化観測で (7/12)
- ・ウォラーFRB 理事 年内あと 2 回の利上げ支持、まず 7 月会合で (7/13)
- ・米セントルイス連銀ブロード総裁が退任、タカ派代表格 (7/13)
- ・イエレン財務長官、米景気後退想定せず、インフレ抑制で良好な進展 (7/17)

<経済指標>

- ・中古住宅販売戸数：5 月は前年同月比 +0.2%の 430 万戸 3 ヶ月ぶり増加 (6/22)
- ・新築住宅販売戸数：5 月は前年同月比+12.2%の 76.3 万戸 1 年 3 ヶ月ぶり高水準 (予想 67.5 万戸) (6/27)
- ・消費者景気信頼感指数：6 月は 109.7 約 1 年半ぶりの高水準 (予想 104.0) (6/27)
- ・ISM：6 月は 46.0 前月の 46.9 から悪化し 20 年 5 月以来の低水準 (予想 47.0) (7/3)
- ・非農業部門雇用者数：6 月は 20.9 万人増加 (予想 22.5 万人増) 15 ヶ月ぶりに予想を下回る (7/7)
- ・失業率：6 月は+3.6% 前月の+3.7%から低下 予想通り (7/7)
- ・CPI：6 月は前年比 3.0%上昇 5 月の+4.0%から鈍化 約 2 年ぶりの小幅な伸び (7/13)
- ・米シガン大消費者信頼感、7 月は 72.6 と上昇、約 2 年ぶり高水準 インフレ緩和が寄与 (7/14)
- ・小売売上高：6 月は予想下回る+0.2% 基調なお好調 (予想+0.5%) (7/18)
- ・住宅着工件数：6 月は前月比▲8.0% 143.4 万戸(予想は 148 万戸)(7/19)

(出所：各種新聞等、2023 年 6 月下旬～2023 年 7 月下旬のニュースを抜粋)